

おばあちゃん育ての「新しい」日々

瀧田節子

(大学教員)

本連載開始後に誕生した三番目の孫Aも八月を迎えます。N七歳、K九歳の三姉妹のおばあちゃんが日常を思い返しながら感じたことをお伝えしたいと思います。

かわいがり孫育てと「背守り」

原稿を書いている八月にリオ五輪。メダルを取った水泳選手のおばあさまがインタビューに答えて「小さい頃から孫をかわいいただけ思っ……」と話されたことが心に残りました。ふくんやっぱりねえ。佐々木正美先生の著書『かわいがり子育て』（大和書房 二〇

〇七年）を一気に読んだときの思いが重なりました。それでも私は「もう、かわいいただけは言ってもらえないのよね」とつぶやき、これを聞きつけたK九歳に「じゃあかわいくない、ってことね」と涼しい顔で言われてしまい、ギクリとしました。

子どもを愛し守り育てることは、両親を軸に健やかな成長を願って毎日の暮らしの中で営まれていくことですが、ここに、友人から教えてもらった「背守り」を思い起こすのです。「背守り」というのは、幼児の成長を願ってうぶ着にひと針、ひと針背縫いの印を付けて

瀧田節子（たきたせつこ）

専門：造形表現教育。東京都の図画工作専科教諭を長く務める。筑波大学附属小学校教諭、お茶の水女子大学附属小学校講師を経て、現在は東洋大学、関東学院大学、清和大学短期大学部で非常勤講師を務めている。

いくもので、魔よけのお守りとのこと。背中の中央に縫い目を通した手仕事がさまざまあるといえます。二年ほど前に「石内都展―幼き衣へ―」（LIXILギャラリー）で小さい人の着物の「背守り」を初めてたくさん目にしたときは、そこに込められた縫い手の思いに圧倒させられました。背守りをまねることはできなくても、これに倣い、孫の浴衣のひもを付けるときはかわいらしい縫い目にしようと思い決めました。それが私のかわいがり孫育てと思つて。

赤ちゃんとお姉たちの時間

七歳N、九歳Kの二人のお姉ちゃんたちと赤ちゃんA七か月の遊び。お姉ちゃんが近づけていく顔に、Aは自分から顔をびつたりと

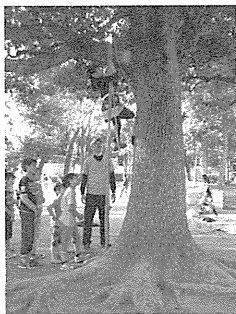


▲すきすき

合わせていきます。そしてお姉ちゃんが「ウフーン」と言うときニコニコしながら「う〜う〜」と一緒に声を出し、幸せいっぱいの間です。家族が増えた喜びを味わっています。

マイブームの遊びをこぞ

NとKの二人が今最優先にしていることは、「区立こどもの森」の緑地でドロドロになつて遊ぶこと。プレリリーダーの見守りがあり、泥んこ、木登り、釘打ちなどで思いつきり遊んできます。ドロの付いた靴洗いもお手ものになりました。その一方でお針仕事にも夢中で、せっせとぬいぐるみを作っています。七か月Aのマイブームは、スキあらば立っちをして、椅子を歩行器代わりに



▲怖いけど登るK6歳

すること、新聞ビリビリ。目が輝きます。

津守真先生、浜口順子先生編著『新しく生きる』（フレールベル館 二〇〇九年）に、津守先生のお孫さんが乳幼児期に水に興味を持たれていたエピソードがあります。津守先生は「子どもが自分で始めたことは、きっと次の思いがけないよい展開がある。」と述べられ、一連の遊びを〈子どもの遊びに表現されたテーマ〉『流れる』イメージと『流す』テーマ」と示されています。

津守先生のようなまなざしが欲しいなあと思いつつ、子どもがしたいと思うことにはその子の訳があると考え、孫たちに寄り添い見守り、マブーム遊びの相手になっていこうと思います。



▲ジャングルジムで、たこやきとわたあめの屋台ごっこ

お姉ちゃんのように

包装紙でお化粧した

段ボールの電車を作り、
包装紙のリユースを



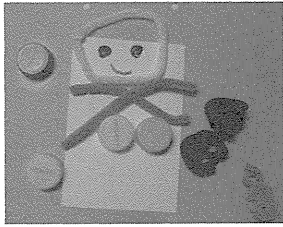
▲段ボール電車で

「と姉ちゃんみたいネ」と言いながら、Aを乗せて遊ぶNとK。一緒に遊べるようになったAに成長を感じたのでしよう、「ねえあば、Aちゃんすごいんだよ。椅子の所で足を上げてたの。登りたいんだね」。お姉ちゃんたちは口々に、新しく見つけたAの姿を教えてくださいました。その姿をイメージすると、Nが一歳になった頃の姿が重なりました。四十七センチ程のツールに手をかけて立ち、片足をよいしょと繰り返し上げる、没頭する姿です。二歳上のお姉ちゃんのようにツールに乗ってシンクの水道の水に触りたい、と必死でトライする妹の姿は、思い返しても胸が熱くなります。

イメージを広げて遊ぶ

春にまいて育てた藍、毎年芽を出すジュズ玉、拾った小枝、海で集めた貝殻、大小の小石、ドングリや松ぼっくり、道端

のネコジャラシやアカマンマ、トウモロコシのひげと皮。まだあります、新聞紙や包装紙、段ボール箱、小箱、紙袋、紙筒、材木屋さんの木片、空き容器、チビた鉛筆、割り箸やストロー、折り紙やセロハン。それから布、ひも、毛糸、古着……。作って遊ぶ材料は、ざっと見渡して挙げただけでも書き切れません。



▲モールとキャップで

これらのたくさんのお恵



▲染め物

みも、造形第一主義では子どもを置き去りにするかもしれないのでイエローカード。家ではこれらを造形の要素から見るとはなく、日々感謝する暮らしからのプレゼントとして楽しむもの、と心掛け、準備しておきたいと思っています。

仏壇のおじいさんへ鉛筆の削りかすを、キレイだからとお供えする孫に、おばあちゃん育てをしてもらいました。これからも孫を育てながら育てられる、日々が新しい暮らしを楽しもうと思います。

— 終わり —



▲人形と



▲小さい頃の服を着せて